

# 成東高校同窓会報

(仮称)

## 会報発行への思い



同窓会長

清水新次  
(昭38年)

私達の成東高校は、今年で創立百十周年を迎えることになりました。

いままで同窓会の会報が発行されておらず、その発行を望む声が多くありましたので、本校創立百十周年を契機として成東九十九同窓会の会報を定期に発行することといたしました。

少子化、高齢化やグローバル化などの進展、景気の長びく停滞、厳しい競争や成果が求められる社会経済の現況の中で、自分を見失わず、豊かな心を持ち、力強く生きてゆくために

は、何か自らを元気づける原点となるものが必要とされる時代になってきたように思います。

成東九十九同窓会の会員は、創立百十周年を迎える今年で二七〇七二名を数えます。物故された方々を除き、その多くは現在社会の幅広い分野の第一線で活躍されているほか、退職され、悠悠自適の方、学生の方など様々ですが、会員の皆さんが共有するのは「質実剛健」・「文武両道」というやや古めかしいモットーのもとに過ごした成高時代の勉強や部活などの「懐かしい思い出」であり、恩師、同級生、先輩、後輩との利害を超越した「交流」であると思われまます。そしてこれらの「思い出」や「交流」

を更に深めることは、会員の皆さんにとって現実社会を心豊かに元気で生きてゆくうえに力強い支えになるのではないのでしょうか。

会報では、成東高校の最新の状況、地域や職場などの支部同窓会の活動状況、恩師や会員の状況などの情報を幅広く提供することとしており、会員の皆さんの御意見、御協力を頂きながら皆さんに愛される会報となるよう更に充実、改善を図ってまいりたいと考えています。

この会報の発行が、成東九十九同窓会会員相互の絆をより強固なものとし、成東高校同窓生としてのまとまりや連帯感の醸成、アイデンティティの形成に大きく寄与するとともに、会員の皆さんが心豊かに健康で元気に生きてゆくための一助となることを切望いたします。



漫画家 立原あゆみ氏作品「一年春」 パンネーム 立原あゆみ氏より寄贈(本名 市川洋一氏 昭40年)

### 創刊号

2010年10月1日

発行

成東九十九同窓会

編集責任者

畑戸輝夫(昭26年)

印刷 (株)サラト

### 学校規模

クラス数 24クラス  
(各学年8クラス)

生徒数 合計974名  
男子 524名(53.8%)  
女子 450名(46.2%)

卒業生数  
合計 27,072名  
旧制中学校卒 4,620名  
併設中学校卒 545名  
新制高等学校卒 21,907名

(平成22年3月31日現在)

# 嘉瀬前会長 インタビュー

平成22年8月18日

同窓会報の創刊にあたり、平成二十一年七月まで本同窓会長として、また野球部後援会長やPTA会長として本校を長く支えて来られた嘉瀬尚敏氏にお話を伺いました。こちらはその抄録です。

平成元年夏の甲子園出場の際には二億一千万円の寄付が集まりました。これは、成東高校を大切に思う方々の御芳志です。そこで、残金を生徒のスポーツ振興に資するために「基金」を設立し、しばらくは毎年約八百万円にもなるその利息を、生徒の部活動支援に還元していました。

しかし、バブル崩壊以降は利息がほとんどつかなくなつたため、やむをえず元金を取り崩すこととなり、二十年ほどで資金は底をついてしまいました。まだ「甲子園の際の残金があるはずだ」と思われている方もおいででしょうが、このようないきさつで当時の資金はほぼ遣い終えてしまっているのです。

今後は、各部が自立して運営資金をOB会や現役で捻出する努力が必要になってくるのではないのでしょうか。

さて、成東高校は、数多くの生徒の活躍によって培われた輝かしい伝統を有しています。例えば本校所蔵品の中に日本刀（脇差し）があるの

ですが、これは剣道部が戦前（第二次大戦前）に実施された関東大会で優勝した副賞として授けられたものと聞いております。縁あって私が研ぎ、定期的手入れをしているのですが、刃毀れ一つ無く、今も冴えた輝きを放っています。

一方で、旧武道館にはだいぶ傷みが見られます。私がPTA会長だった頃にも、破損が進み何とか保存しなければというところで大がかりな補修が行われたのですが、風雪を重ね再び手入れの必要が生じてきました。さらにもう一つ、手入れを重ねてきたものに、桜の木々があります。

かつて百周年の記念事業で記念館を新築する際、予定地にあつた桜の大木は切り倒してはならないという同窓会の強い願いで移植をしましたが、幸い枯れもせず、春が巡り来るごとに見事な花を咲かせてくれています。



旧武道館は、この桜の老樹と共に、昔を偲ぶすがともなる成東高校のかけがえのない文化遺産です。大切に次代へ手渡しゆく責任が、学校にも同窓会にもあると思つています。

本校は、この地域の子弟の登竜門として、百十年の長きにわたり、役割を果たしてきました。その存在は大きく、今も大きな期待が寄せられています。時代と共に変わりゆくものもあるでしょうが、「夢を抱きて集う」誇り高い学校としての使命を永遠に果たし続けていくことを期待し、見守っていきたく思います。

（同窓会事務局 多田達子 昭和58年・松崎正敏（昭和60年）

# 同窓生より

## 樹木との長い付き合い

富塚武邦（昭38年）



現在は日本樹木医学会会員として、仲間とともに樹木の診断・治療や、樹木に関する知識の普及等の活動をしています。

思い起こしますと樹木への関心のきっかけの一つは、高校の図書室で「千葉県文化財図説」を読み、県内の巨樹・古木を訪ね歩いたことです。「清澄の大スギ」、今は枯死した国指定天然記念物の白子町「常福寺のラカンマキ」等、その巨大さや生命の躍動、刻まれた歴史に感銘を受けました。大学は樹木も広範に扱う造園学を専攻しましたが、地理の古川力先生から良い進路選択との励ましをいただき、今でもそのお言葉が忘れられません。そして九十九里町出身の造園家、斎藤勝男先生のお名前を覚えてくださいました。後年、蓮沼でウォーターガーデンの建設に携わった際、斎藤先生がご高齢を押して現場までおいでくださり、石組や宝船の配置等について貴重なご教示をいただきました。

千葉県庁では、主に都市公園、自然公園、まちづくり、自然保護等を担当し、たくさんの樹木を植栽しました。初めての現場は県立都市公園のスポーツセンターで、第38回国体のメイン会場造りでしたが、県営球

場では成東高校野球部がいつも優勝を争っていました。今年は第65回国体が開催されますが、遙かな時の流れを感じます。

行政や現場の業務を通して、緑の意義・役割についての啓蒙と、緑の適切な保護・育成の必要性を痛感し、対応方策の一つとして樹木の診断・治療の知識と技術の習得のため、樹木医の資格を取得しました。今、カメラを片手に県内を歩きながら、房総の地の植生の豊かさや面白さを実感し、四季の移ろいの素晴らしさを堪能しています。そして小さな発見に小躍りし、地域の絆の象徴である巨樹や古木からは元気をいただいています。しかしながら外国産樹種の野生化と席捲、拡大する枯れ枯れ状況、桜の名所の衰退等、厳しい現実の課題も多々見られます。これらへの対応を含め、樹木に関する様々な要請や相談に応え、樹木が元気になることを願ってこれからも活動してまいります。さらに樹木を知ることの楽しさも伝えていきたいと思つています。

## 母校での職業研修の講師を引き受けて

里見 勇（昭39年）



先日、成東高校の進路指導の先生から、『職業研究講演会』を授業

の一環として、はじめての企画で開



催するので講師役を引き受けてほしい」との依頼があり、教室で生徒に話す機会がありました。

話の内容としては、高校時代の思い出や浪人時代を含めた受験勉強のこと、大学（東京大学）で学んだことや学生寮での生活、途中の転職を挟んで勤務した2つの会社での体験から学んだことを40分という持ち時間の中で掻い摘んで話しましたが、結論としては

1. 共同生活やクラブ活動等を通じて、学生時代は出来るだけ色々な人と交わって、多くの親しい友達を作ること。
2. フロンティア精神を持って新しいことにチャレンジしよう、失敗を恐れるな！
3. 誰にも負けない得意分野（得意科目や得意スポーツ等）を持つこと。
4. 国際的な視点を持つこと、それにはまず日本をよく知ること。



### 中西先生の漢文授業

秋葉哲生（昭40年）

て欲しいものと思います。母校の校舎は我々の学んだ時の木造の校舎から鉄筋4階建ての校舎になりましたが、校門から校庭に続く通路脇にある大きな校の老木、築90年になる旧武道場、教室の窓から望む九十九里平野の眺め等はタイムスリップして当時を思い出させてくれました。教室に吹き込む九十九里平野の田園を通り抜けた爽やかな風も、当時図書館の窓際で受けた風の匂いと同じでした。

同窓生の皆様も、ふらっと母校を訪れてみるのも如何かなと思います。

漢文の授業でならった唐詩のいくつかを今でも覚えている。講師の中西先生は授業で唐詩を音読して生徒に聴かせた。先生が音読すると生徒は後を追ってその章句を繰り返すのであるが、文章の終わり頃には声もくぐもって、消え入らんばかりになってしまふのが常であった。先生の朗詠はまことに音吐朗々としており、おもわずうっとり聞き入ってしまう魅力があった。卒業して受験のために浪人してはじめて家を離れたときも、漢文の教科書は下宿までもっていつてときどき開いて音読した。そのうちに新書判の唐詩選をもとめた。それはいまでも書架にあつてページを繰ることがある。

医師になつて30才ごろから漢方医学を学び始めたが、いまから

1800年以上前の2世紀の後漢時代に成立した漢方の書物に、それほど違和感なく取り組むことができた。これは中西先生の漢文の授業のたまものほかならない。

大東亜戦争当時の文語文の氾濫への反動がたぶん国語教育の漢文の比重を低下させるきっかけとなったことは疑いないことである。しかしこれは同時に、日本人の論理的思考能力を低下させる結果ももたらしたことはたしかである。いまでは甘口の猫なで声が日本中に響きわたり、だれもが傷をなめあうような今日の社会がで上がった。だからも反対されぬようなアピールに満ちて、しかし本当のことは誰もいわない社会は異常である。「世界に平和を」と言われればだれも反対できないが、これほど空疎で無意味な言葉もないであろう。漢文の衰退はいまの日本人の情緒的もたれあいとまさ

に表裏をなしている。昭和30年代の最後の3年間をわたしは成東高校に在籍した。先の戦争が終わってまだ10数年しか経っていなかつた。戦争の爪跡は随所に残つていたし、国民の誰もが過ぐる戦争の影響を直接間接に受けていた時代であつた。当時といまと何が違うかといえ、**「信じる」**ことが生きていたといえるだろう。欠乏感に至るところにあつたが、それを圧倒的に上回る**「将来への信頼」**があつた。身の回りは不自由だらけであつたが、そのぶんだけ書物を読んだあとの精神の昂揚感はいちだんと大きかつたように思われる。ひるがえつて物質に恵まれてる現在の後輩諸君はいかがだろうか。

最後に在校生の皆さんに一言。進路に迷つたときは、2つのこと

### 横浜・八景島 シーパラダイス開発への挑戦

布留川信行（昭43年）



横浜・八景島シーパラダイス

景島にある水族館・遊園地などからなる海洋レクリエーション施設です。私は、横浜・八景島シーパラダイスの開発を、当初から手がけ、今、経営に携わっております。

私は、東金市に育ちましたので、海といえば、東京湾の海ではなく九十九里の海でした。高校生のころの九十九里の海は、夏には海水浴客であふれ、また地引網では多くの魚が取れていました。そのころは、今のように地球温暖化など環境悪化のことが多く語られることもない、自然豊かな豊饒の海であつたのだと思います。

東金で、そして九十九里の海で育ち、海や田畑や森林は、いつも身近な存在でした。そんな体験が、後押しして、横浜・八景島シーパラダイスのプロジェクトに出会つたとき、魅力を感じ、どうしても自分でやってみたいと思ひました。1987年

37歳のときでした。多額な設備投資資金（約400億円）が必要となり、客観的には必ず利益が出る保証もなく、上司・同僚のほとんどが反対でした。必ず成功する、多くの市民の皆さんに喜んでいただけると信じ、一生懸命やつていくうちに、多くの協力者や理解者がでてきて挑戦することができました。強い思いと懸命な努力と多くの人に支援され問題を解決することがあることを知りました。またこの時期が、最も苦勞しましたが、最も楽しい時期でもありました。

そして水族館を運営することとなり、海や海の生き物たちが、多くの人々に感動や癒しをあたえ、また海・生物の関わる環境問題についての展示も行い、その啓蒙にも役立つことを知りました。

多くの人が、水族館に多種多様なことを求め期待してやってきました。小さなお子様のいる家族にとつては、レクリエーションの場であり、学習の場でもあります。また学術的には解明されておられませんが、イルカとのふれあいによりイルカとの交流を楽しむこと、心身の安心感が生まれ、不安やストレスが軽減され、リハビリテーションができるといわれています。このように水族館は、多くの魅力にあふれています。

これからも、多くのお客様に、感動や癒しを与え、地球環境の保全について啓蒙し、生命の大切さを伝えていきたいと思ひます。

最後に、成東高校生の皆さん、皆さんの前には輝く未来があります。強い思いとたゆまぬ努力により切り開いていってください。



【参加者一覧】 来賓：松戸 健先生(学年主任) 鈴木哲夫先生(B組担任) 今関智久先生(C組担任)  
中村 誠先生(F組担任) 柘植郁雄先生(G組担任) 市原 勝先生(H組担任)

A組	B組	C組	D組
浅野 俊明 (古川) 安藤 泰弘 (古川) 五十嵐 弘充 太田 馨 (阿部倉) 小川 順一 勝田 勉 川島 幹雄 篠崎 和彦 鈴木 文門 豊田 美子 (藤井) 西村 良子 (藤井) 野嶋 正宏 (橋本) 小柳 正定 (橋本) 平井 敬一	伊藤 勲 伊藤 真澄 上代 敦雄 菊地 良昭 澤本 一明 長島 顕彦 野橋 裕昭 松下 玲子 (齋藤) 太田 香澄 (町山) 橋本 香子 巨谷 幸子	伊藤 勲 伊藤 佳彦 伊藤 利行 鶴沢 英弥 岡田 均 木原 昌利 木原 小坂部 齋藤 逸朗 齋藤 幸光 椎名 康雄 鈴木 秀明 関 篤久 (高橋) 市東 義光 (高橋) 山中 庸男 本村 智子 (石田)	大多和 牧夫 川島 正博 斎藤 正幸 酒井 康雄 醍醐 勇司 野口 裕司 森川 洋 森川 真理 (石井) 武田 美由美 (高橋) 田中 美恵子 (長澤) 豊田 敬子 (花澤) 山中 洋子 (古川) 野口 裕子 (若梅) 戸村 正子
E組	F組	G組	H組
石井 弘 小高 弘己 (川島) 永山 由 山藤 賢一 成田 政行 樋口 弘男 樋口 繁 三木 正規	石原 信夫 原 正利 今関 利則 (岡澤) 内山 敬 小倉 信之 角河 浩 作高 勝美 田辺 光男 西原 智一 長谷川 幸男	秋葉 章二 飯尾 修 岩橋 昌代 (伊藤) 岡田 ひとみ (竹田) 川島 博之 作田 潤 田瀬 良 椎名 秀 鈴木 恒雄 野島 康正 橋本 弘子 布施 善幸 細根 正美 細 千恵子 (齋藤) 三木 政江 (布施) 山崎 和夫 渡辺	江口 雅彦 越川 良樹 渡辺 昌幸 小高 健一郎

※来賓6名 同窓生98名 計104名

# 昭和51年卒 同窓会



平成22年9月19日(日)、京成ホテルミラマールに於いて、普通科第28回・理数科第3回(昭和51年3月卒)の同窓会が開催されました。恩師を囲んで当時の懐かしい話に大いに盛り上がり、最後に全員で校歌斉唱を行い、盛会の内に終了しました。

## 創立百十周年記念式典・祝賀会 ならびに記念事業について

成東高校は明治三十三年(一九〇〇年)に創立され、今年度で百十周年を迎えます。

そこで創立百十周年を記念する式典および祝賀会を十一月に予定しております。式典に伴う講演会では、本校卒業生の伊豫雅臣氏に御登壇いただきます。左記の通り挙行いたしますので、どうぞお誘い合わせの上、奮ってご参加下さい。(ご参加下さる方は別紙にてFAXでご連絡下さいますようお願いいたします)

また、記念事業として、さまざまな取り組みも計画しております。こちらは、さらに具体化の上、ご案内申し上げます。

### ○百十周年記念式典

日 時 平成二十二年十一月十三日(土)  
午後一時三十分～四時

### 場 所

千葉県立成東高等学校第一体育館  
記念講演 千葉大学大学院医学研究院  
精神医学教授 伊豫雅臣氏  
「不安な心を克服するために」  
— 認知行動療法の実用 —

昭和五十二年三月成東高校理数科卒業

### ○百十周年記念祝賀会

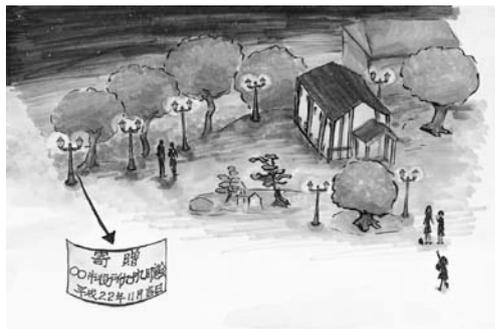
日 時 平成二十二年十一月十三日(土)  
午後四時二十分～六時三十分

### 場 所

千葉県立成東高等学校第二体育館

### ○百十周年記念事業

一、旧正門より百周年記念館付近までの照明灯の設置  
(イラストをご参照下さい)



- 一、旧武道館の改修工事
- 二、記念CDの作成(校歌・応援歌)
- 一、記念グッズのインターネット販売
- ・ 立原あゆみ氏のイラスト入りしおり
- ・ 立原あゆみ氏のイラスト

- 入りクリアファイル
- 立原あゆみ氏の額縁入りイラスト
- 立原あゆみ氏の四季のイラスト入りカレンダー
- 成東高校校歌入り扇子
- 成東高校校歌入り扇装紙
- 校歌、校訓の墨書紙包

### 観櫻會のお知らせ

主催 成東高校観櫻會実行委員会  
後援 成東九十九同窓会  
成東高校PTA  
成東高校PTA  
県立成東高等学校  
平成二十三年三月二十六日(土)  
午後三時～午後七時  
(ライトアップ 午後五時半～)  
千葉県立成東高等学校  
百周年記念館前庭にて



# 今、成東高校の再生のために



校長  
内藤光雄  
(昭44年)

創立百十周年というこの佳き節目の年にあたり、本校同窓会報が成東九十九同窓会様の御尽力により創刊されることを心よりお慶び申し上げます。

今後、本会報の定期的な刊行によって、在校生は本校の辿った幾多の苦難の道や輝かしい足跡を身近に窺い知ることができるようになります。この会報は、必ずや現役生が学問に部活動に日々努力する奮起の糧となりましょう。学校を代表して衷心より感謝申し上げます。

さて、創立以来の歳月を閲する成東高校自身が、今何を為すべきかと自問いたしますと、成東高校という機関が「未来のために行動する人材を育成する教育機関」として十二分な機能を継続的に発揮することが肝要であろうと考えております。

私は中学生とその保護者の皆様に対して「成高のマニフェスト」を発表し、入学した生徒を世界に通用するような質実剛健かつ文武両道に秀でた人材に育て上げ卒業させることをお約束いたしました。具体的には学校として、「生徒一人ひとりの学力を着実に向上させること」、「生徒全員を生徒会活動や部活動に参加させること」、「地域の人を支援するよ

うな行事や活動に積極的に参加させること」、この三点を掲げて実践しているところです。なぜなら、生徒が大きく成長するためには、同世代の様々な人間や異世代の人々と数多く交わる必要があると考えているからです。

そのためには、先ず、生徒自身がクラスから学年、全校、地域の高校、県内の高校、関東の高校、全国の高校、世界の高校と交流の輪を段々と広げていく必要があります。また、自分と異なる世代の人たちとの交流も非常に重要です。いずれも、生徒会活動や部活動、同好会、趣味のサークルなどがそのきっかけとなります。

ちなみに明治維新を推進した先人は、日本各地を旅して広範囲の人たちと交わっています。現代のような情報や交通の環境が整っていないにもかかわらず、結果的に生まれ育った風土、言語、歴史、文化の異なる人々と交わったことで人間として大きく成長したことは確かではありません。

私は、成高生が、勉強だけに優秀な人物になるのではなく、生涯にわたって楽しめる趣味や特技、いわゆる「遊び心」を持ち、世の中には多種多様な考えがあることを知り、大局的かつ複眼的な視点で積極果敢に行動する人物に育って欲しいと願っています。

また、この九十九が丘で育ち、「遊び心」を持った同窓生の声が、本会報に継続的に掲載されることを切に願っております。

刊行にあたって、本会報の表紙を飾っていたいただきました漫画家立原あゆみ氏こと市川洋一先輩、本創刊を熱い思いで推進された畑戸輝夫先輩に心より感謝申し上げます。

## 《同窓会の皆様にお力をお借りしたこと》

母校創立二十周年目に当たる大正十年（一九二二年）十一月に、「武道館」（現在は「旧武道館・トレーニング場」と呼んでおります。）が同窓会や地域の方々の御尽力によって竣工し県当局、学校へ寄贈されました。人口増による千葉県の公立高校の新設は昭和五十九年が最後になりましたが、いずれにせよ学校新設わずか二十年目で、同窓会が学校教育施設拡充の一環として建物を寄附した前例はありません。このことから当時の旧制成東中学校に寄せる地域の期待は格別なものであったことが伝わってまいります。爾来幾星霜を経た今日、誠に残念なことながら、旧制中学以来の歴史的建造物は、この旧武道館のほかには残っておりません。よって旧武道館を改装し、展示を主体とした「成東高校の歴史館」の役割を担うもの、そして本校を訪れた先輩諸兄の心の拠り所となるものとして末永く活用してまいりたいと願っております。

同窓会の皆様の母校である成東高校の生徒は、この歴史ある九十九が丘で日夜勉学に部活動にと励んでおります。先輩諸兄の築き上げた輝かしい伝統に恥じぬよう今後も努力し続ける所存ですので、物心両面にわたる御支援を賜りたくお願い申し上げます。

# 九十九祭「完全新制」

成東高校文化委員長 鈴木公佑



校舎耐震工事の影響で一学期の開催、一般公開も一日のみとなった今年度の文化祭でしたが、逆境こそ燃えるのが成高魂です。新制服が全学年揃った今年度は「完全新制」をテーマとしました。

昇降口前で吹奏楽部が来校者を歓迎すれば、化学部は教室で子どもも大人も楽しめる実験を実施しています。中庭では書道部が大迫力の作品制作を行い、体育館はバンドの熱いライブ演奏、ダンス部も活躍……と書き尽くせるものではありません。数々の模擬店も一翼を担い、皆で作りが盛り上げた今年の九十九祭も、本校の歴史の新たな一頁に値するものであったと、胸を張ってご報告いたします。

## 九陵会より

成東高校生徒会長 鈴木辰哉

九十九祭と併称されるスポーツ大会も、春秋の風物詩です。先生方の御指導を仰ぎながらも委員会主導で企画・運営し、生徒自身の手で行事を作り上げる成東高校の伝統は、健在です。当日はクラス揃いのTシャツで心を一にして熱く闘います。

伝統と言えば、自由な校風の象徴でもあった「女子指定制服なし」の原則を変える際には、様々な意見が出たと聞いています。そして熟慮を重ね、旧制中学の学帽の二本線を胸元に飾るなど、成高ならではの制服が作り出されたのです。

この新制服世代も「文武両道」の実現に努めています。私たちが在校生を温かくお見守り下さいますよう、お願い申し上げます。

## 本同窓会報の名称について

この度、創刊いたしました本同窓会報の正式名称を募集いたします。成東高校の校風を反映し、皆様に親しまれる名称で、お手元へお届けいたします。

いと考えております。ご応募下さる方は、同窓会事務局（8頁左下参照）までご連絡下さいますようお願いいたします。



# 進路状況



## 大きく変化した成東高校

鐘田正之 (昭53年)

成東高校は、今年の4月から「進学指導重点校」として、新たなスタートを切りました。

すでに指定を受けていた県立船橋・千葉東・木更津・長生・佐原・東葛飾・安房に加え、成東・佐倉が加わったことにより、千葉県内の全9学区のすべてに「進学指導重点校」が設定されたわけです。

これは、名実ともに、千葉県の進学指導体制をリードする拠点校が決定したことを意味します。

本校はこれを受け、今まで以上に、生徒の進路希望を実現できるように、全職員が一丸となって、指導体制作りに励んでいます。

本年卒業生の進路状況の概況は別表に示すとおりです。

かつての成東高校とは異なり、現行学区に基づく千葉県高校入試制度のもとで、多くの中学生がこの学区から千葉地区に出ていってしまう現状を鑑みると、この数字はたいへん健闘しているといえます。

これをさらに発展させ、生徒が心から満足できるような進路実現を図るため、現在の成東高校は、年間を通じて、実に多くの進路行事を行っています。

同窓生は、しばしば笑い話として、「俺たちの頃の成東は、進路指導なんてしてもらったことは一

切無かった。」と断言しますが、今は、まさしく隔世の感さえ抱くほどさまざまな進路行事が行われています。

以下にいくつかの実例を紹介させていただきます。

「学習法ガイダンス」は、1年生のための進路行事です。

城西国際大学の最新設備を備えた大ホールを1日お借りして、4月後半に実施します。

高校の授業は中学とは比較にならないほど速く進みます。そこで、成東高校入学後の学習に対する不安感を少しでも軽減するために、英・数・国3教科の勉強の仕方について、各教師が超大型スクリーンを駆使して、懇切丁寧にガイドします。

もちろんこの日は、授業だけでなく、学食を借り切って大学生になった気分を味わうことができ、さらに、直近の卒業生も後輩へのアドバイスのために、わざわざ駆けつけてくれます。

先輩たちの貴重な体験談を聴くことにより、新入生は本校の伝統に支えられていることに気づき、「成高生」になったことを心から実感することが出来ます。

「職業研究講演会」も1年生対象の進路行事です。

これは、同窓生を

## 平成22年度 大学入試結果 (合格者数)



国立大学			
大学名	新卒	旧卒	
北海道大	1	1	
岩手大	1		
茨城大	2	1	
筑波大	1		
宇都宮大	1		
群馬大		1	
埼玉大		2	
千葉大	11	8	
東京医歯大	1		
東京工業大		1	
東京農工大	1		
新潟大	1		
大阪大		1	
徳島大	1		
鹿児島大		1	
琉球大	1	1	
国立大計	23	17	

私立大学 (抜粋)			
大学名	新卒	旧卒	
自治医大	1		
青山学院大	4		
学習院大	5	5	
北里大	3	2	
慶応大		1	
駒澤大	18	4	
芝浦工大	3	3	
順天堂大	5		
成蹊大	1		
名城大	1	4	
専修大	11	10	
中央大	11	3	
津田塾大		1	
東京女子大	4	2	
東京農大	2	2	
東京理大	9	7	
東邦大	11	9	
東洋大	17	13	
日本大	45	31	
日本女子大	4		
法政大	26	10	
明治大	12	11	
立教大	2	3	
立教大	5	5	
早稲田大	4	4	
立命館大	1	1	
私立大計	367	175	

公立大学			
大学名	新卒	旧卒	
高崎経大	2	5	
千葉保健医療大	5		
横浜市立大	1		
都留文科大	1	1	
公立大計	9	1	

中心に、各界で活躍されている方々を成東高校にお招きして、40分ずつ2回の講座を、生徒入れ替え制で行っていただくものです。

お話は職業体験だけでなく、御自身の高校時代の生活などにも及び、多くの生徒が「是非、もう一度聴きたい。」と感想を漏らすほど好評です。

なお、この企画はその独自性が注目され、7月10日付読売新聞に取り上げられ、広く世の中に紹介されました。

記事もここに合わせて掲載させていただきますので、御覧いただければ幸いです。

「大学模擬講義」は2年生対象の進路行事です。

これは、千葉大学や都内有名私立大学から教授をお招きして、大学と同じ90分の講義を、本校で行っていただくものです。

実際の大学の授業を体験することにより、生徒は自分の適性を知り、高校から大学への円滑な接続を図ることが出来ます。

また、学問に対する興味・関心を深め、大学で学ぶことの魅力や楽しさについて知り、将来の進路選択に役立てることもできます。

「大学入試研究会」は3学年対象の進路行事です。

本年は大手進学予備校から講師をお招きし、「計画立案の重要性」と夏休みの過ごし方、「不得意科目の克服法」「センター試験の基礎知識」について語っていただきました。

さらに、まとめとして「今日からやらなければならないこと」と

題して、本校進路指導部長より訓話を行いました。生徒の真剣な眼差しから、入試突破に向けての強い意気込みが感じられました。

紙面の関係で紹介できない進路行事も多々あります。

早朝・休日・放課後・長期休業を通して、進学課外授業が行われているのは当然です。学年別生徒・保護者対象進路説明会も年に数回行われます。

つまり、現在の成東高校は、学校と生徒が一体となり、大学入試突破を目指す体制が整備されているわけです。

これからも同窓生の方々には、進路行事推進に向けて、ますますご協力をいただかなければならぬことも多々あると思っております。何卒、よろしくお願い致します。



### OBが職業講演会 成東高

山武市成東の県立成東高校(内藤光雄校長)で、同校OBの医師や会社社長ら13人が教室などに分かれ、自分の仕事について語り、生徒の将来の職業選択を手助けする「職業研究講演会」が開かれた。比較的時間のゆとりがある。1年生に、自分の将来の真剣に、自分の仕事がいかに人によって違う。やりたいことを一生懸命やる。それが大事と語り、生徒は熱心に耳を傾けた。後樹さん(15)は「強い意志を持って努力を続ければ、夢は必ずかなう」という話が印象に残った。スポーツ関係の職業に就くのが夢、今は野球部の練習を頑張りたい」と決意を新たにしていた。

## 卒業年一覽 及び 資料保管状況一覽 (平成22年9月13日現在)

卒業年	回		回					保管状況									
	旧制 中学	併設 中学	旧制 中学	併設 中学	高 校			卒業 アルバム	PTAだより			九 陵 自 治					
					定時	分校	普通科	理数科					1号	2号	3号	4号	5号
1900	明治33							1		×							
1901	明治34												6号	7号	8号	9号	10号
1902	明治35							2		×			11号	12号			
1903	明治36												13号	14号	15号	16号	17号
1904	明治37												18号	19号	20号		
1905	明治38	1	×							×			21号	22号	23号	24号	
1906	明治39	2	×							×			25号	26号			
1907	明治40	3	×										27号	28号	29号	30号	31号
1908	明治41	4	×										32号				
1909	明治42	5	×							②			33号	34号			
1910	明治43	6	×							×			35号	36号	37号		
1911	明治44	7	×							×			38号	39号	40号	号外	
1912	明治45	8	×							×			41号	42号	43号	44号	
1913	大正2	9	×							○			45号	46号	47号		
1914	大正3	10	×							×			48号	49号	50号		
1915	大正4	11	×							×			51号	52号	53号		
1916	大正5	12	×										54号	55号	56号	57号	
1917	大正6	13	×							○			58号	59号			
1918	大正7	14	×							○			60号	61号	62号		
1919	大正8	15	×							△	1号		63号	64号	65号		
1920	大正9	16	×							○	2号		66号	67号	68号		
1921	大正10	17	×							○	3号	4号	69号	70号	71号		
1922	大正11	18	×							○	5号	6号	7号	72号	73号	74号	
1923	大正12	19	×							△	8号		校舎落成記念号	75号	76号	77号	
1924	大正13	20	×							△	9号		78号	79号	80号		
1925	大正14	21	×							○	10号	11号	81号	70周年式典特集		82号	
1926	大正15	22	△							○	12号		83号	84号			
1927	昭和2	23	△							○	13号		85号				
1928	昭和3	24	×							○	14号						
1929	昭和4	25	○							○	15号						
1930	昭和5	26	△							×	1号	2号	3号				
1931	昭和6	27	×							○	4号	5号	6号				
1932	昭和7	28	△							○	7号	8号	9号				
1933	昭和8	29	△							○	10号	11号					
1934	昭和9	30	×							○	27号						
1935	昭和10	31	×							○							
1936	昭和11	32	×							○	28号						
1937	昭和12	33	△							○	29号						
1938	昭和13	34	△							○	30号						
1939	昭和14	35	×							○	31号						
1940	昭和15	36	×							○	32号						
1941	昭和16	37	×							○	33号						
1942	昭和17	38	×							○	34号						
1943	昭和18	39	×							○	35号			86号	87号	88号	
1944	昭和19	40	×							○	36号			89号	90号 (90周年記念号)		
1945	昭和20	41	×							○	37号			91号	92号		
1946	昭和21	43	×							○	38号			93号	94号		
1947	昭和22	44	×							○	39号			95号	96号	97号	
1948	昭和23	45	1	×						○	40号	41号		98号	99号	100号	
										○	42号	43号		101号	102号	103号	
										○	44号	45号		104号	105号	106号	
										○	46号	47号		107号	108号	109号	
										○	48号	49号		110号	111号	112号	
										○	50号	51号		113号	114号	115号	
										○	52号	53号		116号	117号	118号	
										○	54号	55号		119号	120号	121号	
										○	56号	57号		122号	123号	124号	
										○	58号	59号		125号	126号	127号	
										○	60号	61号		128号	129号	130号	
										○	62号	63号		131号	132号	133号	
										○	64号	65号		134号	135号	136号	
										○	66号	67号		137号	138号	139号	
										○	68号	69号		140号	141号	142号	
										○	70号	71号		143号	144号	145号	
										○	72号	73号		146号	147号		

「卒業アルバム」欄の記号について

- 所蔵
- ② 所蔵 (組単位で2種類存在)  
3年C組・組表記無し
- △ 所蔵 (欠落部分有)
- × 未所蔵

「PTAだより」「九陵自治」欄の記号について

- ～号 所蔵
- ～号 未所蔵

＜連絡先＞  
千葉県立成東高等学校 同窓会事務局  
〒289-1326 千葉県山武市成東3596  
電話：0475-82-3171  
FAX：0475-82-0144

PTAだよりの名称の変遷		
昭和40～昭和50年	成高PTAだより	1～15号
昭和51～昭和54年	成東高PTAだより	1～11号
昭和55～平成4年	成高PTAだより	27～38号
平成5～平成15年	成東高PTAだより	39～58号
平成15年～現在	つくも	59～73号

※同窓生の皆様へ、資料保管への御協力をお願いします。

上表の通り、本校保管の『卒業アルバム』には欠落や欠損があります。また、『成東高PTAだより』の10・11号と『九陵自治』66号も、保存資料の欠番となっております。該当資料をお持ちの方に資料補完の御協力を願えましたら幸いです。同窓会事務局まで御一報下さい。

また、『卒業アルバム』は昭和30年頃には学年単位でなくクラス単位で作られていたのか？昭和55年からの『成高PTAだより』はなぜ27号からスタートしているのか？など、資料についての情報をお持ちの方は、同窓会事務局まで情報をお寄せいただけたらと思います。よろしく御協力をお願い申し上げます。